

「上山城」からのたより 歳冬・第199号

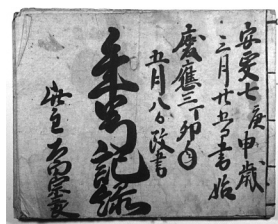
江戸時代の物価

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

「物価高」という言葉を一日に最低一

回は耳にしてしまふ、そんな世の中になつていきます。ただ、歴史を振り返れば、日本人は過去にも「物価高」の世を経験してきているわけですが、それはどのようなものであったのでしょうか。その点について、江戸時代末期の上山の様子を記した古文書「年号記録」(上山の住人 太田宗三良(大工)が作成/掲載画像参照)を用いご紹介させていただきます。

この「年号記録」には、萬延元(一八六〇)年の上山における米・塩・炭・油・納豆の物価の変動について、次のように記されています。



萬延元庚申歳閏三月：米升百八文也
六月十三日ろ壹俵二兩壹朱也。壹升八百七十七文：廿七日百三十二文也。同九月、塩壹升六拾文也：廿七日ろ百二十二也。廿九日より百三十五文二也：但シ納豆壹ツ五文也。始メテ是より九文二也：同十一月十二日始テ四十金之炭六十金ニ相成。同油壹升三百八拾文：十一月十二日より七百六拾文相成

【要約：米(一升)・三月 百八文↓六月二十七日 百三十二文/塩(一升)・九月初旬 六十文↓同月二十九日 百三十五文/炭・四十金↓十一月十二日 六十金/油(一升)・三百八拾文↓十一月十二日 七百六十文/納豆・五文↓九文】
つまり、米(一升)は四ヶ月で約一・二倍、塩は一ヶ月で二倍以上、炭は年内

に一・五倍、油は年内に二倍、納豆は年内に約二倍と短期間で価格が急上昇したと記されています。このような事態が起こった背景には、米の不作(飢饉)や情勢不安(幕政不安・外国との交易など)など様々な要因が複雑に絡み合っていたとされています。

江戸時代に比べれば現代の物価上昇の程度なんて：と言いたいわけではないうえ、物と指導者の力、これらの不足が急激な物価上昇を引き起こす原因であり、さらに、その影響に一番苦しむのは力弱い庶民(物価の動きを詳しく書き残すほど困った出来事)であったと、過去の世の中を眺めて思ってしまった次第です。

なお、江戸幕府は数年後倒れるわけですが、現世は如何に。しっかりと世の流れを見守りたいと思います。

【常設展示室から】抽選で景品が当たる、クイズ上山城探検を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。